

単元名 「おれ」と「はね」の筆使い

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 「折れ」と「はね」の筆使いを理解し、正しく書くことができる。
 (2) 「折れ」と「はね」の筆使いに気を付けて、自分の課題を考えて書くことができる。
 (3) 「折れ」と「はね」の筆使いに気を付けて、字形を整えて書こうとする。

標準的な展開例

03020201_001

【教材名】『力』（毛筆）／こう筆の学習「おれ」と「はね」（硬筆）（P. 24～P. 27）

【準備等】水書板，電子黒板，練習用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 「折れ」と「はね」の筆使いに気を付けて、『力』を書く。 ★「折れ」と「はね」の筆使いに気を付けて書こう ○硬筆と毛筆で『力』を試し書きし，課題をつかむ。</p> <p>○「折れ」と「はね」の筆使いで気を付けるところについて話し合う。</p> <p>○練習する。</p> <p>○まとめ書きをする。</p> <p>○試し書きと比べて自己評価する。</p> <p>○硬筆でまとめ書きをする。</p> <p>○「折れ」と「はね」のある漢字を探して書く。</p> <p>3 「折れ」と「はね」の方向に気を付けて，硬筆で書く。 ★「折れ」と「はね」の方向に気を付けて，硬筆で書こう ○『母・間・山・光・守』を試し書きする。</p> <p>○「折れ」と「はね」の方向の違いを確認する。</p> <p>○『母・間・山・守・光』，続いて『号・調・植・池・予』を練習する。</p> <p>○「折れ」と「はね」を含んだ『方角』『植物』『緑色』を書き，自己評価をする。</p> <p>○「折れ」と「はね」のある言葉や文を考えて書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・硬筆は教科書P. 25の「ためし書き」の欄を活用させる。 ・「折れ」は筆を一度止め，筆の軸を回さないで，穂先の向きを変えずに左下へ運ぶことを確認する。 ・「はね」は筆を一度止め，穂先をまとめながら左上にゆっくりはねることを確認する。 【評】話し合いの様子や作品を通して，「折れ」と「はね」の筆使いに対する「知識・技能」を評価する。 ・「折れ」と「はね」の筆使いに集中して書くように促す。 ・「折れ」と「はね」の筆使い，方向のどこに問題があるのかを個別に確認し，支援する。 【評】練習や作品を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・「折れ」と「はね」の筆使いに気を付けて書かせる。 ・穂先はどこを通っていたか，「折れ」と「はね」の筆使いで気を付けたところはどこだったかを確認するように支援し，達成感が得られるようにする。 【評】作品や自己評価を通して，「折れ」と「はね」の方向や，自分の課題を考えて書く「思考・判断・表現」を評価する。 ・教科書P. 25の「まとめ書き」の欄を活用させる。 ・教科書P. 57～60の「漢字表」から「折れ」と「はね」のある文字を探させ，硬筆で書かせる。 ・「折れ」の方向，「はね」の方向を意識させて書かせる。 ・毛筆で学習した「折れ」と「はね」の筆使いを生かして，丁寧に書くように指示する。 ・何画目が「折れ」と「はね」になるかを確かめさせる。 ・「折れ」と「はね」の方向を確かめさせる。 ・画の方向に気を付けて書かせる。 【評】練習の様子を通して，「折れ」と「はね」に対する「思考・判断・表現」を評価する ・言葉で書いたときも，「折れ」と「はね」の方向に気を付けて書くように声掛けをする。 ・自己評価は，教科書P. 27に書き込むよう促す 【評】作品や自己評価を通して，「折れ」と「はね」の方向に対する「知識・技能」を評価する。 ・語句や文の中でも字形を整えて書くことができるように意識化を図り，日常書写でも生かしていくことができるよう関連付ける。

【 備 考 】